



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月5日

上場取引所 東

上場会社名 三浦工業株式会社

コード番号 6005 URL <http://www.miuraz.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 祐二

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長 (氏名) 野口 明彦

四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日

配当支払開始予定日

TEL 089-979-7010

平成25年11月27日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	38,018	1.9	3,656	0.8	4,395	4.7	2,712	△2.5
25年3月期第2四半期	37,297	6.1	3,626	26.5	4,197	28.3	2,781	59.6

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 4,095百万円 (53.7%) 25年3月期第2四半期 2,663百万円 (64.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	72.35	72.27
25年3月期第2四半期	72.36	72.34

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	109,222	89,475	81.8	2,384.01
25年3月期	105,941	86,029	81.1	2,293.14

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 89,376百万円 25年3月期 85,962百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	20.00	—	21.00	41.00
26年3月期	—	21.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	21.00	42.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	83,000	6.2	8,000	7.5	9,000	1.6	5,400	4.1	141.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
 新規 1社 (社名) 三浦鍋爐股分有限公司、除外 1社 (社名)

(注)詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	41,763,704 株	25年3月期	41,763,704 株
26年3月期2Q	4,273,725 株	25年3月期	4,276,831 株
26年3月期2Q	37,488,416 株	25年3月期2Q	38,439,278 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日～平成25年9月30日)のわが国経済は、円安により企業業績にも明るさが見られるなど、景気回復の兆しが見え始めました。しかし、米国の財政問題や来年4月からの消費税率の引上げ決定など、依然として不透明な状況となっております。

このような状況の中でミウラグループは、コーポレート・ステートメント「熱・水・環境のベストパートナー」の下、「ワク沸クミウラ」をキーワードに省エネルギー、省電力、環境負荷低減をテーマとした「お客様の役に立つ・お客様に喜ばれる」商品やシステムを提案し、業績の拡大に努めてまいりました。また、「人に、街に、工場に、そして世界へミウラが創るインフラトータルソリューション」を合言葉に、3年ぶりとなる「ワク沸クミウラフェア2013」を5月の東京での開催を皮切りに全国5会場で順次開催し、10月の福岡会場を最後に、盛況のうちに終えることが出来ました。

海外では、省エネルギー及び環境負荷低減を基本としたソリューション営業を継続し、更なるメンテナンスサービスの充実を図るため、拠点網の展開に努めました。また、韓国及びインドネシアにおいて、新工場が本格稼働を開始し順調に生産を続けております。

当第2四半期連結累計期間の連結業績につきましては、国内では、各種補助金の公募時期が遅れたことや排熱回収ボイラー(排ガスの持つ熱を回収し有効活用するボイラー)の売上が平準化したことなどにより減収となりましたが、海外では、円安効果に加え、新たに三浦鍋爐股分有限公司(台湾)を連結の範囲に含めたこともあり、売上が増加しました。この結果、売上高は380億1千8百万円と前年同四半期(372億9千7百万円)と比べ1.9%増となり過去最高を更新しました。

利益面につきましては、フェアに係る経費等が増加しましたが、食品機械や医療用機器の販売が好調に推移し、営業利益は36億5千6百万円と前年同四半期(36億2千6百万円)と比べ0.8%増、さらに為替差益の発生などもあり、経常利益は43億9千5百万円と前年同四半期(41億9千7百万円)と比べ4.7%増となりました。四半期純利益は、前年同四半期に確定拠出年金制度への移行に伴う退職給付制度終了益を計上しておりましたので、27億1千2百万円と前年同四半期(27億8千1百万円)と比べ2.5%減となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

[ボイラー等販売事業]

小型貫流ボイラー及び関連機器は、国内では、省エネルギー、省電力を実現する高効率ガス焼きボイラーや次世代型熱利用設備を中心にソリューション営業を展開しました。海外では、日本でも好評なMI(多缶設置)システムの展開により、堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は181億4千4百万円と前年同四半期(172億5千2百万円)と比べ、5.2%の増加となりました。

[水管ボイラー及び冷熱機器等販売事業]

水管ボイラーは、前年同四半期に夏場の計画停電に対応するため自家発電装置が多く納入され、それに付帯する排熱回収ボイラーの納入が集中しましたが、当第2四半期連結累計期間は、納入時期が平準化されたことなどにより、低調に推移しました。また、船用ボイラーも低調に推移しました。

一方、冷熱機器は、近年積極的に商品ラインナップを充実させたことにより、食品機械、医療用機器などが順調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は63億7千万円と前年同四半期(68億8千7百万円)と比べ、7.5%の減少となりました。

[メンテナンス事業]

メンテナンスは、引き続き「ベストパートナー戦略」を推進し、お客様へのICT(情報通信技術)を利用した省エネルギー提案やきめ細かなサービス強化に取り組み、メンテナンス契約の受注確保に努めました。海外では、各国における拠点網の整備や点検管理システムの導入などメンテナンス体制の強化に努めたことにより、好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は135億3百万円と前年同四半期(131億5千7百万円)と比べ2.6%の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

[資産、負債、純資産の状況]

当第2四半期連結会計期間末における財政状態につきましては、総資産は、前連結会計年度末に比べ32億8千万円増加し、1,092億2千2百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金等が減少しましたが、現金及び預金や商品及び製品等のたな卸資産、本社工場及び韓国、インドネシアの新工場建設に伴う有形固定資産の増加などによるものです。負債は、前連結会計年度末に比べ1億6千4百万円減少し、197億4千7百万円となりました。これは主に、賞与引当金などの減少によるものです。純資産は、前連結会計年度末に比べ34億4千5百万円増加し、894億7千5百万円となりました。これは主に、利益剰余金や為替換算調整勘定の増加によるものです。この結果、自己資本比率は81.8%となりました。

[キャッシュ・フローの状況]

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比べ41億8千1百万円増加し、174億3千8百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、35億6千6百万円の収入(前年同四半期比25億円の収入増)となりました。これは主に、たな卸資産の増加による支出が増加したものの、売上債権の減少による収入が増加したためです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、6千9百万円の収入(前年同四半期比18億5千8百万円の収入増)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出を定期預金の払戻や有価証券の売却による収入により補填したためです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、7億9千1百万円の支出(前年同四半期比2千1百万円の支出増)となりました。これは主に、配当金の支払いによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年5月15日に公表した通期の連結業績予想につきましては変更していません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

三浦鍋爐股分有限公司は重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用につきましては、当社は当第2四半期会計期間を含む会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該実効税率を乗じて計算しております。

なお、連結子会社は法定実効税率をベースとした簡便な方法を採用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,413	17,944
受取手形及び売掛金	21,692	19,828
リース投資資産	2,307	2,242
有価証券	8,473	8,778
商品及び製品	3,357	4,524
仕掛品	1,752	2,057
原材料及び貯蔵品	4,541	4,909
繰延税金資産	2,159	2,153
その他	614	848
貸倒引当金	△78	△106
流動資産合計	61,233	63,179
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	15,686	18,722
機械装置及び運搬具（純額）	2,313	2,509
土地	11,221	11,375
建設仮勘定	1,846	897
その他（純額）	967	1,291
有形固定資産合計	32,034	34,795
無形固定資産	496	473
投資その他の資産		
投資有価証券	10,796	9,588
前払年金費用	456	212
その他	968	1,020
貸倒引当金	△44	△48
投資その他の資産合計	12,176	10,773
固定資産合計	44,707	46,042
資産合計	105,941	109,222

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,206	2,357
関係会社短期借入金	20	20
未払法人税等	1,747	1,684
前受金	6,130	7,255
製品保証引当金	512	505
賞与引当金	3,280	2,553
環境対策引当金	10	10
資産除去債務	7	7
その他	5,109	4,391
流動負債合計	19,024	18,786
固定負債		
繰延税金負債	117	263
退職給付引当金	146	229
役員退職慰労引当金	87	97
その他	536	369
固定負債合計	887	960
負債合計	19,911	19,747
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,544	9,544
資本剰余金	10,088	10,088
利益剰余金	73,737	75,763
自己株式	△7,056	△7,052
株主資本合計	86,312	88,344
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	332	579
為替換算調整勘定	△682	452
その他の包括利益累計額合計	△349	1,032
新株予約権	52	83
少数株主持分	14	15
純資産合計	86,029	89,475
負債純資産合計	105,941	109,222

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	37,297	38,018
売上原価	21,699	21,709
売上総利益	15,597	16,309
販売費及び一般管理費	11,971	12,652
営業利益	3,626	3,656
営業外収益		
受取利息	89	104
受取賃貸料	189	189
為替差益	—	210
受取配当金	67	86
その他	257	163
営業外収益合計	604	753
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	18	—
その他	14	14
営業外費用合計	33	14
経常利益	4,197	4,395
特別利益		
固定資産売却益	4	0
退職給付制度終了益	301	—
特別利益合計	306	0
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	7	88
投資有価証券評価損	8	3
特別損失合計	16	91
税金等調整前四半期純利益	4,487	4,304
法人税等	1,705	1,592
少数株主損益調整前四半期純利益	2,781	2,712
少数株主利益	0	0
四半期純利益	2,781	2,712

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,781	2,712
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△120	246
為替換算調整勘定	2	1,135
その他の包括利益合計	△118	1,382
四半期包括利益	2,663	4,095
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,662	4,094
少数株主に係る四半期包括利益	1	1

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,487	4,304
減価償却費	946	1,008
株式報酬費用	—	37
前払年金費用の増減額 (△は増加)	△152	243
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△40	26
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△722	△752
受取利息及び受取配当金	△156	△190
支払利息	0	0
為替差損益 (△は益)	40	△184
投資有価証券評価損益 (△は益)	8	3
有形固定資産除売却損益 (△は益)	3	85
無形固定資産除売却損益 (△は益)	—	2
売上債権の増減額 (△は増加)	315	2,431
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△623	△1,323
仕入債務の増減額 (△は減少)	△553	△323
その他	△350	△314
小計	3,201	5,054
利息及び配当金の受取額	155	174
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△2,291	△1,663
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,065	3,566
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△6,467	△4,406
定期預金の払戻による収入	4,983	5,456
貸付けによる支出	△47	△100
貸付金の回収による収入	50	56
有価証券の取得による支出	△9,100	△5,998
有価証券の売却及び償還による収入	10,200	8,103
投資有価証券の取得による支出	△908	△1
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,000	0
関係会社出資金の払込による支出	△116	△6
有形固定資産の取得による支出	△1,367	△2,998
有形固定資産の売却による収入	16	3
その他	△31	△39
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,788	69
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△2	△3
自己株式の売却による収入	—	0
自己株式の取得による支出	△0	△1
配当金の支払額	△767	△787
財務活動によるキャッシュ・フロー	△770	△791
現金及び現金同等物に係る換算差額	△43	290
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,537	3,135
現金及び現金同等物の期首残高	14,317	13,256
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	1,172	1,046
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,952	17,438

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	ボイラー等 販売事業	水管ボイラー 及び冷熱機器 等販売事業	メンテナンス 事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	17,252	6,887	13,157	37,297	—	37,297
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,063	285	—	1,349	△1,349	—
計	18,315	7,173	13,157	38,646	△1,349	37,297
セグメント利益又は損失(△)	625	919	3,919	5,464	△1,837	3,626

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用となっております。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	ボイラー等 販売事業	水管ボイラー 及び冷熱機器 等販売事業	メンテナンス 事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	18,144	6,370	13,503	38,018	—	38,018
セグメント間の内部売上高 又は振替高	996	308	—	1,305	△1,305	—
計	19,141	6,679	13,503	39,323	△1,305	38,018
セグメント利益又は損失(△)	788	908	3,914	5,611	△1,954	3,656

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用となっております。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。